

第3回 福井県こども・子育て応援会議

次 第

日 時：令和7年1月29日（水）

13：30～15：00

場 所：福井県庁 正庁（地下1階）

（Teams 併用）

1 開 会

2 議 事

（1）「福井県こども・子育て応援計画」案について

（2）意見交換

3 事務連絡

4 閉 会

○配布資料

【資料 1】「福井県こども・子育て応援計画」案 概要

【資料 2】「福井県こども・子育て応援計画」案 一部抜粋

【資料 3】「福井県こども・子育て応援計画」案 全体版

【資料 4】「福井県こども・子育て応援計画」案 やさしい版

【資料 5】欠席委員からのコメント

第3回 福井県こども・子育て応援会議 委員名簿

【委員】

(備考)

仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授	石川 昭義	
福井県私立幼稚園・認定こども園協会 会長	徳本 達之	
福井県民間保育連盟 副会長	菅原 崇	委員代理
福井県済生会乳児院 院長	橋本 幸代	
越前市「みんなの食堂」実行委員会 代表	野尻 富美	
平谷こども発達クリニック 院長	平谷 美智夫	
公益財団法人 青少年育成福井県民会議 会長	田村 洋子	
NPO法人 わくわくくらぶ 理事長	芝 美代子	
一般社団法人 福井県子ども会育成連合会 会長	改藤 修	
ふくい移住サポーター	野尻 知子	
NPO法人 おっとふあーざー 代表理事	館 直宏	
地域の縁結びさん	大野 三和	
福井県経営者協会 専務理事	山埜 浩嗣	

【アドバイザー】

東京大学 大学院経済学研究科 教授	山口 慎太郎	オンライン
-------------------	--------	-------

(敬称略、順不同)

1 趣旨

子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、全てのこども・若者の社会参画や権利擁護を図りながら、子育て当事者も含めて一人ひとりの多様な夢や希望を社会全体で応援する風土を醸成し、支援団体や関係機関、市町等と協働して、こども・子育て施策を総合的に推進する。

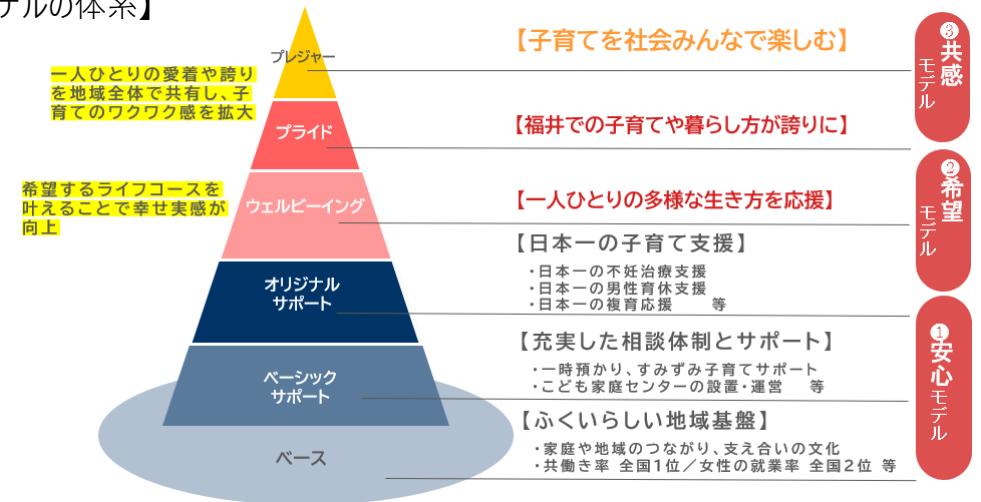
2 計画期間 令和7年度から令和11年度（5年間）

3 基本理念

こども・子育ての“よろこび”を 次世代につなぐ「ふく育県」へ

家庭や地域のつながりを大切にする福井らしい子育て環境を基盤とし、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢や希望が叶う社会の実現を図ることにより、社会全体でこどもの“よろこび”・子育ての“よろこび”を分かち合い、次世代につないでいく「ふく育県」を目指す

【ふく育モデルの体系】



【総合評価】

目標項目	現状 (R5)	目標 (R11)
ふく育県の評価	72.8%	85.0%
将来こどもを持ちたいと考えている県民の割合	40.7%	60.0%

4 政策モデルと最重点プロジェクト

一人ひとりの安心と希望を追求し、共感を広げていく \ 3つの「ふく育モデル」 /

I ふく育安心モデル

一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない社会

【最重点プロジェクト】

■ こどもの安全・安心を確保

- ひとり親や多胎児、医療的ケアなど様々な家庭環境におかれたこども・若者に寄り添った支援
- 安心できる多様な居場所づくりへの支援

■ 安心の子育て環境を確保

- 保育人材確保と教育・保育の質の向上
- 様々な子育て世帯をサポートする「ふく育さん」・「ふく育タクシー」の利用支援や「すみずみ子育てサポート事業」の充実
- 産後訪問やこども食堂を介した見守り活動など、アウトリーチ型支援の実施
- 必要な情報を適切なタイミングで届ける仕組みづくり

II ふく育希望モデル

一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる社会

【最重点プロジェクト】

■ こども・若者の夢や希望を応援

- 若者の恋愛機運の醸成・出会いの機会の拡充
- こども・若者や子育て世代への伴走的な支援に取り組む団体への応援

■ こども・子育ての幸せ実感を実現

- 将来の妊娠のための健康管理（プレコンセプションケア）からスタートする「ゆりかごから巣立ちまで」の切れ目ない支援の推進

III ふく育共感モデル

子育ての“よろこび”が生まれ、広がっていく社会

【最重点プロジェクト】

■ 社会全体でこども・子育てを応援

- 市民主体のこども・子育て応援イベントのつなぎや情報発信の応援
- 時短勤務や男性育休など多様な働き方の拡大により、誰もが仕事と家庭を両立できる社会の実現
- こども・若者目線での政策形成機運の醸成

■ 子育てのワクワク感を増大

- こどもたちがいつでも楽しめる全天候型遊び場を全市町で整備
- 福井県児童科学館等の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討

「福井県こども・子育て応援計画」 施策の方向性

★こどもの意見反映
●新規・拡充等重点的に取組む施策
○継続して取組む施策

I 一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない「ふく育安心モデル」の実現

I-1 こどもの安全・安心を確保

【こども・若者主体の社会づくり】

○こどもの教育・養育の現場におけるこどもの権利等に関する理解促進と意見聴取の推進

●誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進

★●こどもの安全安心のための見守り活動の推進 など

【一人ひとりの環境に寄り添った支援の充実】

★●養育に困難を抱える家庭に対する支援（訪問支援、通所支援、短期入所等）の充実

★●ヤングケアラーや生きづらさを抱えたときに集える相談・居場所拠点の確保

●生活困窮世帯やひとり親家庭児童への学習・生活支援の充実

★●親を頼ることができない子どもたちの家庭的で安定した生活環境の場の確保

★●入所児童の退所後を見据えた自立支援と退所後も支え合えるネットワークの構築

★●青少年の非行防止活動と有害環境対策などによる健全育成の推進 など

【こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携】

★●家庭でも学校でもない安心できる多様な居場所づくりへの支援

●ひとり親、多胎児、発達障がいや医療的ケアなど様々な家庭環境に応じた支援の充実

●児童相談所、市町、施設等こどもに関わる支援者の研修・交流拠点の設置

★●介護、障がい、子育て、生活困窮などの支援機関が連携した協働支援体制の構築

●外国にルーツを持つ児童生徒等に対する生活支援や相談体制の強化 など

あらゆる環境におかれたこどもや若者が取り残されないきめ細かな支援を実施し、分野を超えて互いを理解、尊重し合う社会を目指す

I-2 安心の子育て環境を確保

【子育てのサポート体制を充実】

●様々な子育てのニーズをサポートする「ふく育さん」・「ふく育タクシー」の利用支援

●一時預かりや子育て世帯の家事支援を行う「すみずみ子育てサポート事業」の充実

★○「放課後児童クラブ」の人材確保や事業運営を支援し、安心・安全な活動環境を実現

○母子保健・児童福祉の一体的相談支援を担う「こども家庭センター」の活用

●こども食堂等と連携したアウトリーチ型の見守り体制の構築

●待機児童ゼロを維持するための保育人材確保と教育・保育の質の向上

○就労要件を問わず柔軟に利用できる新たな通園制度の実施

○こどもの豊かな育ちを支える保育者の仕事魅力発信 など

【当事者に確実に届く情報発信】

●子育て支援策や母子保健等に関する情報の集約・発信アプリなど子育て支援DXの推進

★●施策の利用シーンなどを分かりやすく伝える当事者目線での広報展開 など

目標項目	現状(R5)	目標(R11)
保育所等の待機児童	0人	0人
一時預かりの平均利用回数	5.2回	6.5回
医療的ケア児者日中利用事業所数	50事業所	65事業所
夕方見守り運動協力店	1,684店舗	2,000店舗
里親委託率	22.9%	42.0%
「住んでいる地域に自分の居場所がある」と感じている若者の割合	50.8%	65.0%

II 一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる「ふく育希望モデル」の実現

II-1 こども・若者の夢や希望を応援

【人生の希望を叶える社会づくり】

★●自分の将来や生き方を考える機会を広く提供する「ライフデザイン教育」の推進

★●地域の特性を活かした体験学習や職業教育の充実

★●こども・若者が将来への夢や希望を見いだす活動を応援

○自己の適正と能力に応じた職業能力開発の機会確保と就労支援

★●若者の恋愛機運の醸成・出会いの機会の拡充 など

一人ひとりの夢や希望を応援する風土を醸成し、こどもをもつことや子育ての幸せを実感できる社会を目指す

II-2 こども・子育ての幸せ実感を実現

【「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実現】

●将来の妊娠のための健康管理（プレコンセプションケア）の実施

●日本一の不妊治療支援、市町や関係機関と連携した母子保健の充実

★●保育料無償化や高校・大学の授業料支援等による日本一の“ふく育”応援 など

目標項目	現状(R5)	目標(R11)
県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数	109件	200件
産後ケア事業を受けた人数（延べ）	1,541人日	3,100人日
将来の夢や希望（目標）を持っている児童生徒の割合	(中学校)68.9%	(中学校)75.0%

III 子育ての“よろこび”が育まれ、さらに広がっていく「ふく育共感モデル」の実現

III-1 社会全体でこども・子育てを応援

【みんなで支えるこども・子育て応援社会づくり】

★●地域の様々な主体が参加する見守りネットワークの構築

●民生・児童委員やアクティブシニア層、外国人県民など地域の担い手による活動支援

★●男性育休が当たり前となり、誰もが仕事と家庭を両立できる社会づくり

★●時短勤務やテレワークなど、多様な働き方を実践する社員ファースト企業の拡大

●企業等と行政が連携し、社会全体で子育て世帯を応援する環境づくり

●「こども・若者政策マインド」を県内に広げ、こども・若者目線での政策立案・実行を強化 など

III-2 子育てのワクワク感を増大

【家族で子育てを楽しむ風土づくり】

★●こどもたちの健やかな育ちを支える全天候型遊び場等の整備推進

★●夫婦や家族で家事・育児を楽しむ「共家事」の普及拡大

★●親子のふれあいや親学びを通して家庭の教育力向上を支援 など

子育てを応援する福井への愛着が地域全体に浸透し、こどもをもつことや子育てのよろこびが大きく育まれ、共感し合う社会を目指す

【楽しさやよろこびが感じられる子育て観の醸成】

●こども・子育てへの前向きなイメージを醸成するキャンペーンの展開

★●市民主体の“ふく育”イベントをつなぐ情報発信の応援

★●福井県児童科学館・福井県こども家族館の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討

★●小・中・高校生を対象に乳幼児と触れ合う機会を創出 など

目標項目	現状(R5)	目標(R11)
男性の育児休業取得率	31.4%	85.0%
社員ファースト企業宣言企業数	712社	1,500社
乳幼児ふれあい事業の参加人数	3,168人	5,500人
子育てに「楽しみや喜び」のイメージを持っている県民の割合	44.2%	60.0%

〔参考〕「福井県こども・子育て応援計画」の策定について

1 概要

子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、子育て当事者に加えて、新たにこども・若者からの意見等も踏まえ、「福井県こども・子育て応援計画」を策定

2 位置づけ

・こども基本法に基づく都道府県こども計画であり、以下の計画も兼ねる

- ・子ども・若者育成支援推進法に基づく都道府県子ども・若者計画（子供・若者の健全育成、成長応援等）
- ・子ども・子育て支援法に基づく都道府県子ども・子育て支援事業支援計画（教育・保育給付、支援体制整備等）
- ・次世代育成支援対策推進法に基づく都道府県行動計画（結婚支援、仕事と子育ての両立等）
- ・成育医療等基本法に基づく成育医療等に関する計画（母子保健、医療・保健・教育・福祉等の連携体制等）
- ・こどもの貧困解消法に基づく都道府県計画（修学支援、生活支援、支援体制整備等）

・福井県長期ビジョンの分野別計画

3 これまでの取り組み

家庭や地域のつながりを大切にする福井らしい地域基盤をベースに、預かり施設などの充実、保育料・高校授業料無償化等の拡充をはじめとする本県独自かつ全国トップクラスの子育て施策の展開により、子育て環境の充実化が進んでいる。

- ・待機児童ゼロの継続
- ・男性育休取得率の向上（R5:31.4%）

4 現状と主な課題

（1）家庭における支え合いの力が低下してきている。

- ・3世代同居率が年々低下 H22：17.6% → R2：11.5%（国勢調査）
- ・1ターン世帯含めた核家族世帯が増加 R1：51.4% → R6：56.3%
（R1結婚・子育てニーズ調査／R6こども・子育て調査の結果）
- ・高齢者有業率の上昇 H29：27.8% → R4：30.9%（総務省「就業構造基本調査」）

（2）子育てやこどもをもつことに関して希望するライフコースを歩めていない人がいる。

- ・20～40代の理想のこどもの数 2人：47%、3人：37%（R5子育て意識調査の結果）
- ・合計特殊出生率 R1：1.56 → R5：1.46
（子育てにあたっての負担・不安に思うこと）
 - ①仕事と子育ての両立：41.0%
 - ②身体の負担：39.8%
 - ③自由時間がない：37.0%
 - ④経済的な負担：34.9%（R6こども・子育て調査の結果）
- （子育てへのイメージ）
 - ・子育てのイメージは「楽しみや喜び」 全体：44.2%、18～20歳代：34.7%
 - 「義務や責任」 全体：27.6%、18～20歳代：31.0%（R5県民アンケートの結果）
- ・20代30代の若者の69.4%は結婚意欲があるが、67.6%は交際相手がない／28.5%は交際経験がない（R6こども・子育て調査の結果）

（3）本県がこれまでに進めてきた子育て施策に対して評価していない／無関心層が約3割。また、施策そのものの認知度が低い。

- ・本県の子育て施策を評価していない・どちらでもない：27.2%（R5県民アンケートの結果）
- ・本県の独自施策14のうち、県民の半数以上が認知していた施策は3つのみ
（R5子育て意識調査の結果）

5 策定コンセプト〔新たな観点〕

“こども・若者に寄り添う視点”で「ふく育県」をリデザイン

- 【リデザインの視点】
- あらゆる環境に置かれた当事者が利用／参画できる仕組みになっているか〔包括目線〕
 - 利用者にとって分かりやすく利用しやすい制度になっているか〔利用者目線〕
 - 将来の当事者にも訴求できる内容になっているか〔将来目線〕

【策定プロセス】 県民約 **12,000人**（うち**約6割**がこども・若者）に意見聴取

聴取手法	聴取人数
こども・若者、子育て世帯、未婚者へのニーズ調査	2,008人
子育て世帯、未婚者への子育て意識調査	1,606人
小中高生・若者へのWebアンケート	4,952人
小中学生とその親への子どもの生活状況実態調査	3,435人
多様な立場や環境の子育て世帯等との意見交換	72人
様々な環境のこども・若者とのワークショップ	294人
こども・子育て応援会議（分科会含む）	26人

6 目指す姿の方向性

《課題を踏まえた検討の観点》

○様々な家庭環境に応じたサポートや情報発信の充実により、必要な支援が確実に届く体制づくりが必要

○若い世代が将来に夢を見だし、多様な一人ひとりの結婚や出産・子育ての希望が叶う社会環境づくりが必要

○こどもをもつことや福井で子育てすることの前向きなイメージを、将来に向けて社会全体で共有できる仕組みづくりが必要

《こども・若者の主な意見》

私にはお父さんがいない。お母さんが一人で家のことをやっていて大変・・・

誰かの居場所を増やす活動をしたい！

障がいについてもっと学びたい！

こどもが自らの可能性を発見できる活動の場を応援してほしい！

交際相手はほしいけど活動方法が分からない・・・

乳幼児との触れ合いなどの機会がもっとあると良い！

たくさんのすてきな子育てイベントがあるけどどれも単発でもったいない・・・

《目指す姿の方向性》

一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない

安心感のある社会

一人ひとりの夢が叶い、

幸せを実感できる**希望**

をもてる社会

子育ての“よろこび”が

育まれ、広がり、**共感**

し合う社会

〔目標〕

◆総合評価

目標項目	現状	目標
ふく育県の評価	72.8% (2023年度)	85.0% (2029年度)
将来子どもを持ちたいと考えている県民の割合	40.7% (2023年度)	60.0% (2029年度)

◆個別評価

目標項目	現状	目標
保育所等の待機児童	0人 (2023年度)	0人 (2029年度)
一時預かりの平均利用回数 ※保育園等や放課後児童クラブ利用者を除く対象の子ども一人当たり	5.2回 (2023年度)	6.5回 (2029年度)
医療的ケア児者日中利用事業所数	50事業所 (2023年度)	65事業所 (2029年度)
夕方見守り運動協力店	1,684店舗 (2023年度)	2,000店舗 (2029年度)
里親委託率	22.9% (2023年度)	42.0% (2029年度)
「住んでいる地域に自分の居場所がある」と感じている若者の割合	50.8% (2024年度)	65.0% (2029年度)
県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数	109件 (2023年度)	200件 (2029年度)
産後ケアを受けた人数(延べ)	1,541人日 (2023年度)	3,100人日 (2029年度)
将来の夢や希望(目標)を持っている児童生徒の割合	小学校:85.3% 中学校:68.9% 高校:74.9% (2023年度)	小学校:90.0% 中学校:80.0% 高校:80.0% (2029年度)
男性の育児休業取得率	31.4% (2023年度)	85.0% (2029年度)
社員ファースト企業宣言企業数	712社 (2023年度)	1,500社 (2029年度)
乳幼児ふれあい事業の参加人数	3,168人 (2023年度)	5,500人 (2029年度)
子育てに「楽しみや喜び」のイメージを持っている県民の割合	44.2% (2024年度)	60.0% (2029年度)

福井県子ども・子育て応援計画 策定経過

日 程	内 容
令和6年 6月12日	第1回福井県子ども・子育て応援会議 福井県子ども・子育て支援計画の進捗状況 福井県子ども・子育て応援計画の策定について 子ども・若者への意見聴取の取組みについて
6月27日	第1回市町担当課長会議
7月30日	第1回子ども応援分科会 子どもたちが安心して安全に暮らせる社会とは 子どもたちが豊かに、健やかに成長できる社会とは
8月19日	第1回子育て応援分科会 子どもも親も、双方が幸せな社会とは 子育てを地域全体で担い、楽しむ社会とは
9月19日	市町担当者会議
9月25日	第2回子ども応援分科会 子ども・若者の意見聴取（中間とりまとめ）について これまでの議論の深堀について
10月16日	第2回子育て応援分科会 子ども・若者の意見聴取（中間とりまとめ）について これまでの議論の深堀について
11月 1日	第2回市町担当課長会議
11月20日	第2回福井県子ども・子育て応援会議 福井県子ども・子育て応援計画の骨子案について
令和7年 1月29日	第3回福井県子ども・子育て応援会議 福井県子ども・子育て応援計画案について
2月17日 ～ 3月3日	パブリック・コメントによる意見募集
3月31日	計画策定

※その他、子ども・若者からの意見聴取や子育て当事者との意見交換を実施（第4章参照）